

中日本ネットワーク

東

支社

区上前津一丁目4番12号
上前津ファーストビル
331-3371
331-3374

新社長登場

New President

歴史継承、一層の発展

史を引き継ぎ、既存顧客業一筋で歩いてきた。1分かかる製造業の醍醐味も大切にしていこう。現場992年からは名古屋支社勤務となり、東海コイルセンター工業会メンバーとの付き合いも20年に及ぶことから「気軽に話ができる人が多く、心強いです」とのこと。

「60年の歴史の中で、20年間社長を務めていた安田和雄会長も側におられる。よきご意見番としてアドバイスをいただながら、後進に70年、80年と続く企業として託すことができるよう、基礎固めを進めていきたい」とさらなる発展、継続を目指す姿勢だ。

(安江 芳紀)

「当社は8月で60周年を迎える。まずはこの歴史を

住金物産に入社後、東京本社鋼板部に配属され、勤務地としながら同社の

08年からは三栄鋼板に出向、静岡工場をベースとした。この経験も踏まえ

「皆で議論できるオープンな会社になりたい。会議や朝礼などの機会に、話し合いができるようにす



氏

当初は「平たん

7月1日 宗家(ハルマ)へ戻るコフレート歴



上杉社長

【四日市】総合リサイクル企業のウエスギ(本社三重県四日市市天ヶ須賀新町1-32、上杉圭司社長は、

ウエスギ 月間400-500トンと堅調

非鉄スクラップ 破砕加工事業 ナゲッツトは倍増

月間ナゲッツト加工量が前年比倍増となるなど、非鉄スクラップ関連の破砕加工量が月間400-500トンレベルで堅調推移が続いている。アルミ製ワイヤハーンネスのナゲッツト加工事業への参入など、技術レベルの向上に努めてきたことが加工量の拡大につながった。

同社は1980年、上杉勝治会長が銅ナゲッツト加工機を独自開発するなどして銅ナゲッツト事業に参入。それ以来、非鉄スクラップ加工について高い技術とノウハウを誇る。近年でもアルミ製ワイヤハーンネスのナゲッツト加工事業へ業界に先駆けて参入するなど、積極的

な事業展開を行っている。足元のナゲッツト加工量は前年比倍増の月間250-300トンほど。アルミ製ワイヤハーンネスの対応設備を新規導入するなど、加工能力を増強したことなどが加工量を押し上げたこととなった。ただ、アルミ製ワイヤハーン

スの加工量については「大量にスクラップダウンされるのはまだ先で、現在のところ加工量はそれほど多くない(上杉社長)」との認識を示す。

非鉄金属スクラップの加工全般について、新規案件の獲得などもあり、堅調な事業推移を見せている。その結果、震災の影響がありながらも2011年7月期の売上高は前期を上回る公算が強まっている。

上杉社長は「これまでに培ってきた総合力」

同社は三重県を拠点に各種事業を展開する総合リサイクル企業。銅、アルミ、ステンレスなどの非鉄金属リサイクルのほか被覆線のナゲッツト加工、廃プラスチックやFRP船のリサイクル、廃水処理など主に行う。米国内シントン州に関連会社ウエスギUSAがある。

辺山形00円 00円程も早期見込み 気材料 地区

た、引き合い件数は過去最高水準を保ち、今年度については「コストダウン」ノスピ「折込案件を増やし、施工・流通会員各社のコストダウンの追求や」オ」を策定。さらに「増量などを目標して」の正形錦糸よて一船形鋼巾況は、需要低調が下げを要六日以

中部 プ相場 止まり 方、へ はなお 状が続 っている 殊鋼× な生産 ず、へ 災地か ラップ